

ため池決壊の原因

地震

地震の揺れによって堤防に亀裂が入ると、ため池が決壊するおそれがあります。活断層が多くある日本では、どこにでも直下型地震が発生する可能性があるため、大きな地震の発生後には注意が必要です。

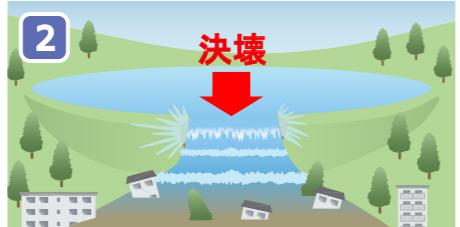
大雨

大雨等により、ため池の水位が上昇すると堤防が浸食され、決壊の可能性が高まります。短時間に激しく降る大雨(ゲリラ豪雨)が増加している昨今、集中豪雨等の状況では最大限の警戒が必要です。

ため池決壊の起こり方



大きな地震、大雨等で堤防が損壊(亀裂や堤防前面の滑落箇所から漏水など)

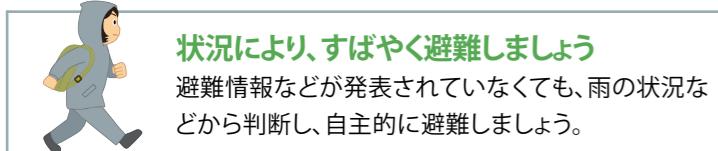


ため池決壊による被害

- ため池の水や土砂が濁流となって、同時に押し寄せます。
- 決壊地点直下の地域の建物や車は押し流される可能性があります。
- 道路や住宅地、田畠は土砂に埋まります。

満水時に全ての貯水量が瞬時に流出する状況を想定

状況に応じて、早めの避難を



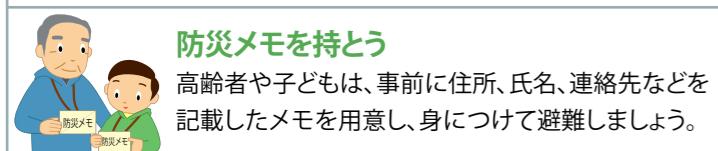
状況により、すばやく避難しましょう

避難情報などが発表されていなくても、雨の状況などから判断し、自主的に避難しましょう。



家族には連絡メモを残そう

外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくと良いでしょう。



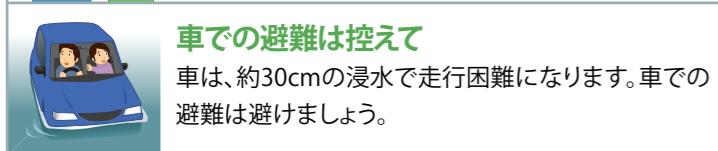
防災メモを持とう

高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。



集団で助け合おう

単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



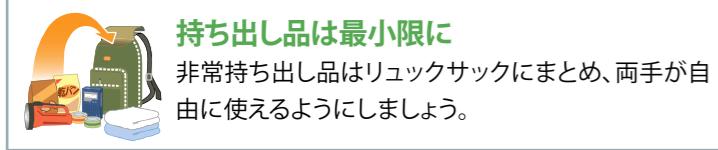
車での避難は控えて

車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は避けましょう。



安全なルートで避難

避難所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。



持ち出し品は最小限に

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



避難所では指示に従いましょう

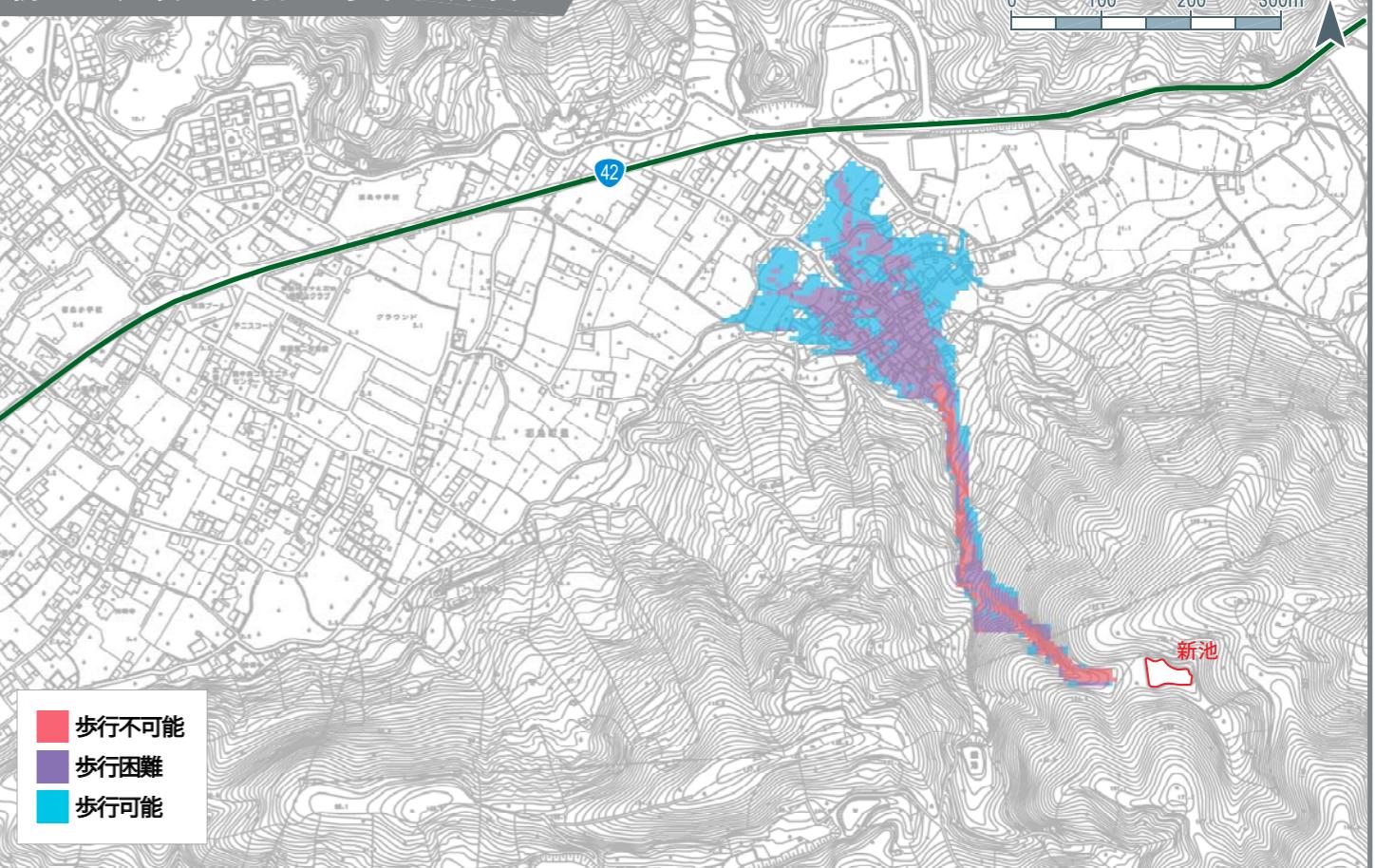
避難所に着いたら、係の人の指示に従い、住所・氏名を報告しましょう。

浸水後の避難の困難度

シミュレーションにより算定された各地の浸水深・流速から、歩行困難度の目安をマップに示しました。「歩行不可能」「歩行困難」と判定された地域では、浸水する前の事前避難が重要です。

浸水深	流速	0.5m/s未満		
		0.5m/s~1.0m/s	1.0m/s以上	
1.0m以上	深	困難	不可能	不可能
0.5m~1.0m	中	可能	困難	不可能
0.5m未満	浅	可能	可能	困難

新池が決壊した場合の歩行困難度



非常時持ち出し品

避難が必要になった場合に備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておくと良いでしょう。

●食品・水

- 飲料水(500mlペットボトル程度)
- 乾パン・クラッカー・缶詰など、火を通さないでも食べられる物



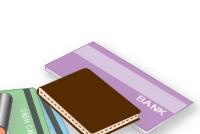
●救急・安全対策

- 救急医薬品(絆創膏・傷薬・包帯)
- 病人やお年寄りの常備薬
- ヘルメット(防災ずきん)



●貴重品

- 現金
- 預貯金通帳、印鑑
- 権利証書
- 免許証
- 健康保険証



●日用品

- 筆記用具
- ろうそく、ライター
- ナイフ、缶切り
- ティッシュペーパー
- ビニール袋



●衣類など

- 衣類(下着・上着)
- タオル
- 毛布
- 手袋、軍手



●その他

- 洗面用具(歯ブラシ・石けん)
- ほ乳びん
- 紙おむつ
- メガネ



i 避難情報と、とるべき行動

災害の発生が予想される状況では、ラジオ・テレビなどで正確な情報を収集し、適切な行動をとってください。また、周りの様子にも注意しましょう。

ため池の異常に気付いたら、すぐに緊急時連絡先へ通報してください!

緊急時連絡先 警察 110
救急 119
有田市役所 0737-83-1111

避難情報

高齢者等避難

避難の準備を始めてください。

避 難 指 示

ただちに避難してください。

住民のみなさんに求める行動

- 避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。他の人は、家族等との連絡、非常時持出品の用意等、避難の準備を始めましょう。
- 速やかに避難先へ避難しましょう。
- 公的避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。